

# 養殖漁場改善研究

(予算区分 国補助 研究期間 平成13～17年度)

担当：水産試験場漁業開発部沼津分室

## 【研究の背景とねらい】

平成11年5月に施行された持続的養殖生産確保法に基づき、漁場改善計画が平成14年度に策定されました。内浦湾内の海面養殖漁場において底質環境のモニタリングを年2回行い、漁場環境の現状把握と改善評価を行うことを目的としました。

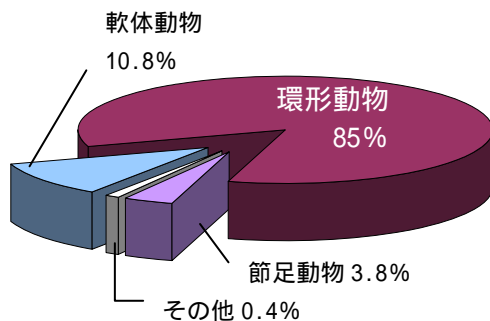
## 【これまでに得られた成果】

内浦湾内の10地点について、底質の硫化物量と底生生物相を調査しました。

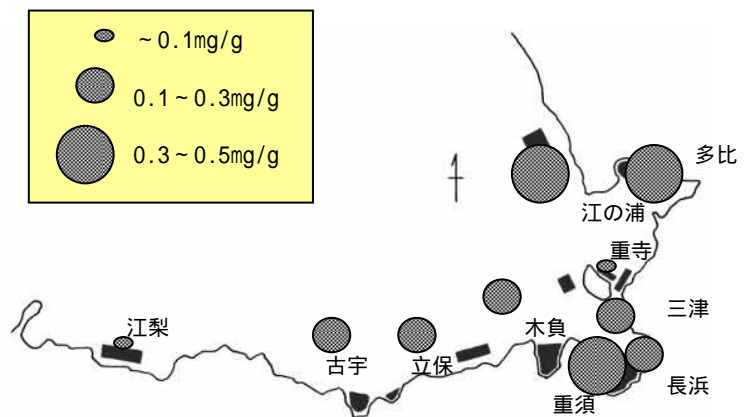
硫化物量は、江梨など湾口に近い地点では少なく、湾奥の江の浦・多比などで多い傾向が示されました。底生生物は、湾全体として多毛類が優先的に出現し、やや汚染された環境であることが示されました。しかし、調査開始以来、硫化物量は減少傾向を示し、無生物であった江の浦・多比でも生物が出現するなど、環境改善を示す結果も見られました。



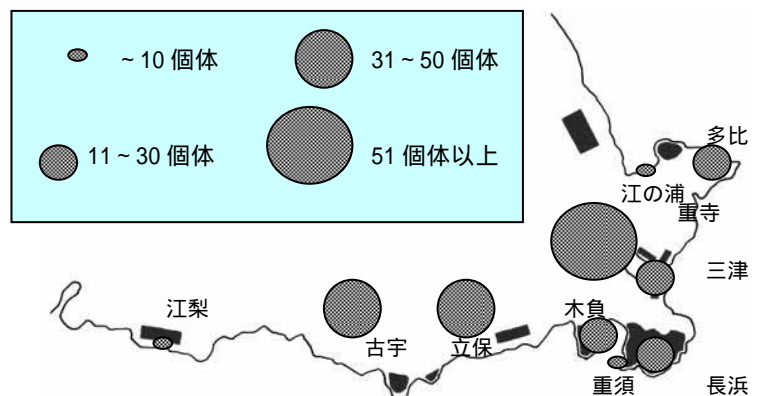
底質サンプリングの様子



底生生物の種組成  
(17年1月、全地点合計)



各養殖場の揮発性硫化物量 (平成17年11月調査結果)  
(番号：調査点 養殖漁場)



各養殖場の底生生物個体数 (平成17年11月調査結果)  
(番号：調査点 養殖漁場)

## 【成果の普及方法】

調査結果は回次ごとに内浦湾内の養殖業者に送付しました。養殖業者自らが漁場環境の現状を認識することにより、漁場の持続的利用に関する意識が高まることが期待されます。

(作成 平成18年4月)